

2021年1月1日

Value Management Innovation

株式会社ブイ・エム・アイ総研

「活・人・経・営[®]」コラム第84回

<DXに生かす暗黙知>

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年は新型コロナウイルスの感染症（COVID-19）が世界中で社会、経済に大きな打撃を与えました。今年は安全性の高いワクチンの開発、実用化が急速に進むと思われませんが、予断は許されない状況です。

このコロナ禍において在宅ワークや Web 会議、通販など物理的距離を克服するためのデジタル化が加速されました。日本はデジタル技術の利用面に於いて先進国のなかでは遅れをとっており、政府も昨年の新内閣誕生時に DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進も含めて、デジタル庁の設置を表明しました。この DX に対応することは、タイムリーなサービスの提供や情報の取得、さまざまな仕事の自動化や最適化が視野に入り、労働生産性の向上にも大きく繋がることでしょう。ここに早くから取り組んでいる企業が国内・外を問わず既に安定した業績を残していることでも明らかです。

ところが DX の推進には、事業目的や経営計画がベースになることが前提ですから、経営者の理解や強い決意、指導力などが求められます。又、個人情報保護も含め、セキュリティ上の対策など多くの問題解決が伴います。

With コロナ、After コロナに対応することは、業績の復帰や安定的成長を狙い、自社の競争力を再検証する機会でもあります。今迄の豊富な経験や知恵などアナログ的な暗黙知を有する中高年社員と、デジタル思考に強い若手社員が融合して自社のあるべき姿を探求していけば、必ずやイノベーションの種子（市場競争力のある新商品や新サービスなどの源泉）が芽生えてくるでしょう。

本年も昨年同様変わらぬご愛顧のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

<探究者たちの社会>

発見は非生命界の出来事とは異なる。すなわち、

- (1) 発見を触発して導く場は、より安定した構造の場ではなく、「問題の場」である。
- (2) 発見が起こるのは、自然発生的ではなく、ある隠れた潜在的可能性を現実化しようと「努力」するからである。
- (3) 発見を触発する、原因の無い行為は、たいてい、そうした潜在的可能性を発見しようとする「想像上の衝迫（しょうはく）である」。

— 出典：「暗黙知の次元」マイケル・ポランニー著 高橋勇夫訳 —